

兵庫県文化交流センターインターンシップ報告書

看護学部 2 回生

藤永 瑛美

実施期間：平成 27 年 2 月 14 日（土）～3 月 31 日（火）

○インターンシップの内容

事務作業としては図書整理・貸し出し、電話業務、日本や日本での生活情報に関する資料作成、ホームページに掲載する所長のメッセージの英語翻訳、災害対策に関する会議への参加・チャターボックスの準備・参加を行った。また 3 月上旬に行われたパース最大の日本祭りの参加に際して「揖保乃糸」PR を行うための広告作成・物品準備・調理・販売を行った。3 月中ごろにはインターンシップと同時並行して行っていった健康問題に関するフィールドワークでの学びと解決の糸口の提案の 1 つとしてわらび餅とラジオ体操の紹介をするプレゼンとわらび餅の試食・ラジオ体操の実践のワークショップを行った。またセンターに隣接するインターナショナルスクールの小学生を対象とした異文化理解の School visit で書道のデモンストレーションや手伝いをした。

また兵庫文化交流センターでの活動に加え、学術協定校のカーティン大学看護学部・公衆衛生学部の講義の参加・病院・老人施設訪問・医療関係者との面会・兵庫県立大学付属高校の willeton high school の日本語授業参加に参加し、自分自身の専門分野の学びも深めた。

○インターンシップで得たこと

全ての業務が英語になるので今までに体験の有無は関係なく、私にとって新鮮だった。その仕事、私がしても良いのかとを感じる事もあったが常に” Let’ s try!” といって下さった職員の方々のお蔭で多くを経験出来たように思う。勿論、大きな外交は国単位で行われるが、業務や事務所を訪れる方々と関わる中で私自身のインターンを含め、地域間での架け橋がここにはあると感じた。日本に興味がある方々が訪れて談笑する、日本に留学しようとする人に情報を提供する。逆に留学中の日本人が訪れて情報交換するなど人と人をつなぐ役割がとても大きいように感じた。

センターでの活動に加え、生活習慣病が大きな問題となっている両国において誘因の 1 つである肥満をキーワードに「オーストラリアには肥満の方が多いのか」を調査した。なんとなくの予想はついていたが専門家からの意見や情報から予想が覆され、驚いたが 7 週間の生活の中でさまざまな方と関わったり、学びのプレゼンを通して、確実な答えは得られなかったものの、文化や考え方の違いから自分なりの答えはいくつか見出せた。また高齢化社会という点でも共通する両国だが、医療・老人施設訪問を通じて日本に取り入れれば

よいと思う点を多く見つけた反面、効率的でも日本人の考え方等を考慮すると取り入れは困難だと感じる点も多くいかに類似する問題を抱えていても国が異なれば解決策も変わるのだと実感した。それと同時にグローバル化に伴い、異文化理解を求められるこの時代に頭で理解できても受け入れる事・実践する事の難しさを感じた。勿論、大学関係者をはじめ、多くの方々の支援の基に実現したこの7週間であるが、インターンシップ参加の機会を得て、センターでの活動に留まることなく専門の学びも深められるように計画を自ら立て、最後は自ら出向くというスタイルのお蔭で受け身では常に能動的に動く事ができ、動けば動くほど繋がりが広がり、休みがないくらい予想以上の経験の場を得る事が出来た。ただ、そのつながりを広げるにあたってはまず、第一に自分は何がしたいのか何ができるのかを把握し、伝えられる力は必要だと感じた。どこに行ってもあなた誰で何をしに来て将来どうしたいのか聞かれた。インターンで来ているということも関連しているかもしれないが、自分自身も活動の明確化が図れるとともに相手側も焦点を合わせて機会を合わせてくれお互いが合えば更なるステップに進んでいった。その一連のおかげで”study”だけに留まらず、”learn”が視野・視座の拡大の大きなカギを握っていると再確認できた。インターンの機会を与えてもらうきっかけになったグローバルリーダー教育ユニットの時期から1年半が経ち、様々な場面でリーダーシップ・グローバルリーダーとはなにか考えてきて答えは無限大にあるように感じる。しかし、異なるフィールドであっても何かを自ら探究して楽しんでいる者というのは定義の一つになるのではないかと思う。楽しそうな人に人は惹きつけられ、探究するからこそ視野が広がり、視座が高まる、そんな人はリーダーシップをとるにふさわしいのではないかと思った。

○これからの自分にどう活かされていくか

住み慣れた日本に戻り、3回生となり実習に忙しくなる事が予想されるが忙しさを理由にせず、この7週間再確認した学ぶことの楽しさ・人と繋がる面白さを大切して興味の或る事にはどんどん挑戦していきたい。その中でも一つ一つを一点で見つめるのではなく、多角的に見て様々なことを探究し、視野拡大そして見識を高めていきたい。

○後輩たちに引き継いでいきたいこと、メッセージ

どのような形であれ、海外で活動する事は楽しみもあり、不安もあります。「まずはやってみる！興味があるならやってみる！」よく言われますが本当にそうだと思います。目の前にあるものを掴めなければ、今度はいつ学ぶのだろうと考えてみてください。チャンスは意外と転がっているものだと感じます。日本だから学べること・海外に行ってみたら学べること、得られる自信があります。もしかしたら周りに流されてしたい事が出来ない人もいるかもしれません。私の場合、大学入学後に目指していると所が似ている方々と出会ったことで今があると感じています。大学2年間でたくさんの方々に会い、とても自分に影響を受けているように思います。自分から少し手や足を伸ばしてみてください。きっ

と新しい世界が見えてきて学生生活もっと楽しくなるはずです！無限大に広がる学びの線を自ら伸ばしていきましょう。私もそんな方々とぜひ、つながっていききたいと思います！

